

「平和と持続発展のためのユネスコ・ウィーク：教育の役割」会議参加報告

UNESCO Week for Peace and Sustainable Development: The Role of Education

【開催地】カナダ・オタワ 【開催機関】2017年3月6日～10日

ジャパンアートマイル (JAM)

1. ユネスコ・ウィークとは

「平和と持続発展のためのユネスコ・ウィーク」が2017年3月6日から10日までの1週間カナダのオタワで開催されました。この会議の目的は、ユネスコが推進している「持続可能な発展のための教育 (ESD: Education for Sustainable Development)」と「地球市民教育 (GCED: Global Citizenship Education)」に各国が取り組んできた実践を検証して、「持続可能な発展目標 (SDGs)」の2030年達成に向けて新しい教育アプローチを議論することでした。

世界中から400人以上の教育専門家、政策決定者、教師が集まり、会議前半の6日～8日はESDに関するグローバル・アクション・プログラム (GAP) のフォーラム、後半の8日～10日はGCEDのフォーラムが行われました。

2. ジャパンアートマイルの会議参加の経緯

JAMは、2016年12月にユネスコ本部で「アートマイル壁画展」(ユネスコ日本政府代表部共催)を開催しました。

壁画展の目的は二つありました。一つは、2015年度にユネスコ本部 ASPnet の提案により実施されたアートマイル事業「IIME: an experimental phase with UNESCO ASPnet schools」の学習の成果と意義を発表すること、もう一つは、平和で持続可能な世界の実現のために他の国でもその国を中心とするアートマイルを行って未来を創る子供たちを重層的に世界につなげようと呼びかけることでした。

アートマイル壁画展を見に来られたボコバ事務局長は「アートマイルの国際協働学習はESDとしてもGCEDとしても有効なプロジェクト」と高く評価してくださり、教育局のチョイ部長 (Division for Inclusion, Peace and Sustainable Development) は「これはもっと世界に広がるといい。オタワでアピールしてはどうか」とユネスコ・ウィークに招待してくださいました。ユネスコ本部から招待された人しか参加できないユネスコ・ウィークにJAMから代表と事務局長が参加しました。



ユネスコ・アートマイル壁画展



ボコバ事務局長の来観



チョイ教育局部長と歓談

3. オープニング

「持続可能な発展のための教育（ESD）」と「地球市民教育（GCED）」の二つの会議がジョイントする8日にオープニングが開催されました。

ボコバ事務局長は、「異文化理解を促進し、社会の回復力を強化し、未来をナビゲートする新しい形の教育が必要です。私たちはこれまでの努力の結果を踏まえて、教員養成やカリキュラムを具体的に変革しなければなりません。改革を成功させるためには、スキルと自信を備えた教師が必要です。」と教師が変わることの必要性を強調されました。



JAM 代表は、ボコバ事務局長に、昨年 2016 年 12 月にユネスコ本部で開催したアートマイル壁画展のお礼をお伝えしました。

ボコバ氏はアートマイルのことをよく覚えてくださっており、笑顔で応えてくださいました。また、展示ブースにも来ていただきました。



4. ユネスコ・ウィーク：ESD と GCED のジョイント会議

(1) 全体会

全体会では、気候変動・先住民・ジェンダーなどの問題が共有され、持続可能な未来を達成するための様々な分野の取組やそれぞれの機関の役割などについて発表があった後、参加者間で議論し、意見を共有しました。

その中で、「世界を変えるためには教師の役割が大きい」ことが確認され、「教師の変革を起こす方法を共有し、支援する必要がある。」「ESD を教授法に統合して学習を改善する努力をしないと成功しない。」などの声が上がりました。



全体会会場では「ホール・ミーティング」も行われました。会場のテーブル毎に各国の現状やそれぞれの取組をシェアし、途中でテーブルを移動してメンバーを変えてさらに議論しました。



(2) 分科会

分科会は、ワークショップ形式とディベート形式で進められました。ここでも各国の実践発表の後、それぞれの課題についてテーブル・ディスカッションを行いました。

JAM 代表からは、「持続可能な開発目標（SDGs）を教育で実現するためには、教師自身の変革が必要である。教師が未来を創る次世代を育てているという自覚を持ち、自身がグローバルな視野で考え、直面する課題を世界の人々と協力して解決したり、協働して新しいものを生み出す経験をするのが有効である。今回いかに教師をトレーニングするかが課題となっているが、セミナー等でトレーニングして教室に持ち帰るというよりは、アトマイルの国際協働学習のように実際に文化背景が異なる世界の人と協働する体験を通して、子どもだけでなく教師もグローバルシティズンとして鍛えられる。協働体験の成果物が明確な形で見えることも重要である。成果が目に見えることで、実践者は大きな達成感を得ることができるだけでなく、達成感是世界の人々と協働する自信となる。」という意見を出しました。



5. アートマイル壁画展示

JAM は会議場のブースで3枚の壁画を展示しました。どの作品もそれぞれのテーマについて海外の相手と十分に学習を重ね、想いを合わせて制作されたことがうかがえる作品です。

【展示作品】

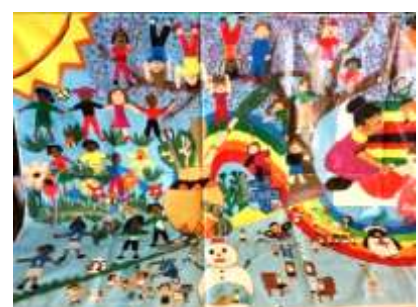
- ・「平和な世界 We are friends! Let's play together!」
(日本) 石川県宝達志水町立樋川小学校
(ジンバブエ) Helena Infant School
- ・「共生 自然との共生・障がい者との共生」
(日本) 兵庫県立芦屋国際中等教育学校
(インドネシア) SMPN 23 Surabaya
- ・「環境 環境問題は国境を越えて広がる地球全体の問題」
(日本) 東京都立田柄高等学校
(カナダ) Lincoln M. Alexander Secondary School



ボコバユネスコ事務局長と在カナダ門司日本大使がアートマイル壁画を観に来て顶けました。

期間中、様々な国の方がアートマイルに関心をもってブースを訪れ、これまでにアートマイルに参加がなかった国の方々と多くの出会いがありました。

また、東京都オリンピック・パラリンピック準備局から託された東京オリンピックのリーフレットが注目を集めました。JAM ではオリンピックの年に ESD・GCED の成果としてアートマイル壁画展を計画しています。





6. レセプション・クロージング

3月8日の夜にカナダ歴史博物館でレセプションが行われました。これからの新しい教育という共通の想いを持つ400名を超える参加者の方々と親しく言葉を交わし、エキサイティングな時間を共有しました。



クロージングでは、ユネスコ本部のチョイ教育局長が閉会の挨拶をされました。「これまでに様々な取組が行われ、一定の成果が得られた。それはそれで良いことだ。しかし、今求められているのは、new reality (新しいリアリティー), different approach (これまでにないアプローチ) だ。」という言葉が非常に印象的でした。



7. 新たな動き

JAMのユネスコ・ウィークへの参加の目的は、これまでに参加がなかった国へのアプローチと、アートマイルのホスト国を世界に広げることでした。

海外の国が中心となるアートマイルに関して、今年に入ってからドイツのNGOとフランスのユネスコASPnetが関心を示していました。オタワではドイツとフランスの関係者と直接会って話をする良い

機会となりました。また、会議で出会った中国のユネスコ機関も関心を示しており、今後取り組みを検討することで相談を続けることとなりました。

(1) ドイツの動き

ドイツで ESD に長年関わってきた NGO の方がアートマイルをドイツで行うことに前向きで、会議に参加するためではなく、私たちと話をするためにわざわざオタワに来られました。ドイツでアートマイルが始まるように、JAM のノウハウを提供し、立ち上げのサポートをしていきます。



<学校訪問>

オタワから車で1時間ほどのところにある Rothwell-Osnabruck School (小学校) はアートマイルに毎年参加しているリピーター校です。昨年9月に始まったアートマイルの国際協働学習がこの3月で終わろうとしています。オタワに来られたドイツの方は、これを機会に Rothwell-Osnabruck を訪問しました。カナダ側で壁画が完成し、子供たちがこれまでの学習の振り返りをしているタイミングで、教師と子供たちから直接アートマイルの話聞くことができました。



(2) フランスの動き

昨年 2016 年 12 月のユネスコ・アートマイル展でフランスの ASPnet ナショナルコーディネーターに会った際にフランスでのアートマイルの立ち上げを提案してからフランス内で検討が進められていました。検討メンバーの一人が会議に参加しており、立ち上げに向けて意見交換をしました。帰国後、その方が中心となってフランス・アートマイルを立ち上げる提案書をユネスコ国内委員会に提出したとの連絡が入りました。まずフランスが実現に向けて動き出しました。



8. 総括

ジャパンアートマイルは、自国の伝統文化に誇りを持ち、グローバルな視野をもって自ら考え行動し、世界の人々と協働して世界の調和と平和に貢献する次世代を育てることを目指して、2006年に「アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト」（通称アートマイル）をスタートさせました。これまでに61の国と地域から1,103校36,864名の児童生徒がアートマイルに取り組み、その全ての学習が途中で脱落することなく完結しています。それはJAMの参加校教師へのきめ細かいサポートの結果であり、一定の成果が得られたととらえています。

しかし、日本だけが日本の子供たちを世界につないで、それで世界は平和になり、持続的に発展していくものではありません。現在世界は急速にグローバル化している一方で、世界中で自国第一主義が台頭して社会が不安定化しており、子どもたちは未来の予測が立ちにくい時代を生きています。子どもたちは自分たちの未来に安心して希望と夢を膨らませることができるといよりは、地球の環境と世界の安全に不安を感じながらこれから生きていくことが予想される状況です。

自分たちの周りの問題も自国だけで解決できないほどに世界と複雑に繋がっている時代に、子供たちは世界の同世代と知恵を出し合って、協働して新しい問題に立ち向かっていかななくてはなりません。アートマイルは、子供たちが世界の同世代とインタラクティブに学び合い、協働して新たなモノを生み出す国際協働学習を進める中で、自分たちの生きる世界を自分たちの手でより良くしようと考え、行動する力を育むことができる学習の一つであると考えています。

今回、オタワで、他の国でもその国の子供たちを世界とつないでアートマイルをしようという動きが出ていることを確認でき、立ち上げに向けて話し合いができたことは、平和で持続可能な未来を創る子どもたちをグローバルシティズンとして世界中で育む挑戦への第一歩として大きな成果でした。

また、会議期間中に、ペルー、ミャンマー、スウェーデン、デンマーク、エストニア、スイス、オーストリア、ポルトガル、レバノン、バーレーン、コートジボワール、マダガスカルなど、これまでにアートマイルに参加していない多くの国の教育関係者と出会うことができました。

これは、オリンピックが開催される2020年に世界中の子どもたちと共同制作した壁画を展示して、世界中のお客様をお迎えしようという計画を進める上で意味がある出会いです。

平和で持続可能な世界を自分たちの手で創ろうというメッセージを込めて作成された子どもたちの壁画は、ESD・GCEDの学習の目に見える成果です。子どもたちの未来に向けたメッセージを2020年に世界中に発信したいと計画しています。